

今こそ SDGs

SDGs（持続可能な開発目標）は持続可能な世界の実現を目指して、国際社会が2030年までに達成することを約束し合った17の目標である。

ゴールまであと10年、国や国際機関だけでなく、NGO・NPO、そして企業の間でも目標達成への機運が高まりつつある。多くの企業で、事業を通じて社会課題を解決するための挑戦が始まっている。

こうした中、世界中に広がった新型コロナウイルス感染症は社会経済活動を停止させ、計り知れないダメージをもたらした。同時に、世界がSDGsの目標からどれだけかけ離れたものであったかを人々に気付かせることになった。

コロナ禍はここに来てひとまず収束に向かっている。再生に向け世界は動き始めた。コロナ禍を機に、これまでの開発・経済発展のあり方を軌道修正し、持続可能な世界に変えていこうとする動きにつながっていくことが期待される。

企業の活動も、先行きが見通せない今こそSDGsを羅針盤に。



コロナ禍とSDGs

明らかになった問題

多くの国で医療体制の未整備が露呈、医療崩壊も

——目標 3・すべての人に健康と福祉を

手洗い・うがいをするための清潔な水がない

——目標 6・安全な水とトイレを世界中に

過度の都市化・人口密集が感染の広がり拍車

——目標 11・住み続けられるまちづくりを

行動制限・生産停止などで特に社会的弱者に大きな「しわ寄せ」

——目標 1・貧困をなくそう

——目標 2・飢餓をゼロに

休校で学習できない生徒・児童、オンライン授業も限定的

——目標 4・質の高い教育をみんなに

誤解や偏見に基づく露骨な人種差別、暴力まで

——目標 10・人や国の不平等をなくそう

経済社会活動停止で大気が浄化、活動再開で悪化

——目標 7・エネルギーをみんなに　そしてクリーンに

——目標 12・つくる責任　つかう責任

——目標 13・気候変動に具体的な対策を

森林伐採で野生動物と人間の距離が近づきウイルス感染リスクが拡大

——目標 15・陸の豊かさを守ろう

自国内の対応で手いっぱいになり国際的な連携・協力が欠如

——目標 17・パートナーシップで目標を達成しよう

すでに変革の兆しも

在宅勤務の広がりで働き方に変化

——目標 8・働きがいも　経済成長も

新サービスが登場するなどオンライン経済化が加速

——目標 9・産業と技術革新の基盤をつくろう